

汚染牧草の一時保管事例② ～福島県B村～

フレキシブルコンテナを利用した一時保管

①汚染牧草の保有状況

保有農家数	保有量	汚染濃度
7戸	243トン(推定)	最高2万Bq/kg

②一時保管の概要

実施主体

- ・福島県の基金事業を活用。B村が実施主体。B村が保有農家と委託契約を締結(梱包から運搬・蔵置まで作業内容ごとに単価を設定。)

実施期間

- ・平成24年6月から事業開始。現在、共同仮置き場の整備中。

場所

- ・B村の村有地に共同仮置き場を設置。

実施方法

- ・耐候性フレキシブルコンテナに牧草ロールを梱包し、共同仮置き場で隔離一時保管予定。

費用

- ・約1,800万円

③保管方法の検討

- B村では、共同仮置き場への移動を念頭に、
- ①梱包が容易である
 - ②運搬が容易である
 - ③仮置き場の設計計算がしやすい
- 等の理由からフレキシブルコンテナへの梱包を採用。

〈耐候性フレキシブルコンテナの特長〉

- ①遮水性が高い
 - ②紫外線の影響等による劣化に強い
 - ③丈夫で長期的な保存に耐えうる
- ※牧草ロールの収納が可能となるよう、直径150cmのコンテナを特注(通常110cm)。角型コンパ外タイプの乾草はバラして収納。



④作業手順

フレキシブルコンテナへの梱包



共同仮置き場整備まで仮置き

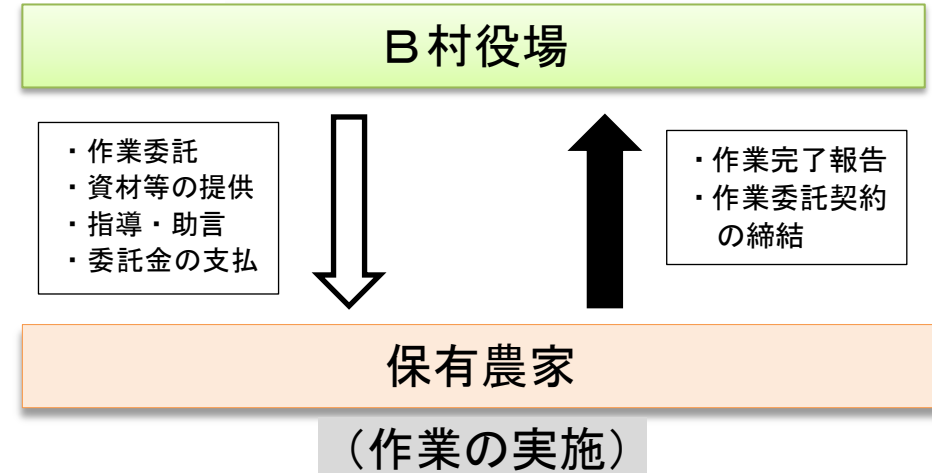


共同仮置き場イメージ



⑤B村の取組

実施体制



作業内容	委託金単価
フレコンバッグへの詰め込み	3,000 円/個
フレコンバッグの積み込み	1,000 円/個
フレコンバッグの運搬	1,300 円/個
フレコンバッグの積み降ろし	1,000 円/個

◎B村による資材等の提供

フレコンバッグ、マスク、ゴーグル、ゴム手袋、タイベックスーツなど